

# 鉄道唱歌を活用した JR 烏山線沿線の地域活性化方策に関する一考察 ～『烏寶線鉄道唱歌』の解明から『現代版鉄道唱歌』製作までの取組みを踏まえて～

足利工業大学工学部 ○学生員 鳥海 航

同 学生員 藺田 恩治

同 正会員 福島 二郎

栃木県立烏山高等学校教諭 藤井 啓太

## 1 はじめに

恒常的な少子高齢化の進行と若年層を中心とした大都市圏への過度な人口流出に伴う弊害が、わが国の地方都市を取り巻く大きな課題として顕著になって久しい。中心市街地の地盤沈下はもとより、地域文化の維持・継承が困難な状況も各地で顕在化している。本研究の対象都市である栃木県那須烏山市も同様な課題を抱えた地方都市であり、その対応が急務と言える。

本研究は、埋もれていた鉄道唱歌の解明を踏まえ、その活用手法の検討をととして、JR 烏山線沿線の地域活性化にアプローチすることを目的としている。2014 年から取組んできた本研究は、発掘資料『烏寶線鉄道唱歌』の解明、さらにその成果を基に市民との協働による地域活性化に向けた取組みへと進展している。本稿では、これまでの研究成果の整理を行うとともに、市民ワークショップによる『現代版烏山線鉄道唱歌』の製作過程を踏まえ、その狙いおよび成果について考察を行う。

## 2 これまでの取組み成果の整理

### (1) 発掘資料『烏寶線鉄道唱歌』の解明

わが国の鉄道唱歌は、国文学者・大和田建樹が作詞し大阪・三木書店店主の三木佐助により 1900 (明治 33) 年に発行された『地理教育鉄道唱歌第一集・東海道篇』がその嚆矢とされる。鉄道唱歌は、沿線の景勝地や名物

表 1 特定した『烏寶線鉄道唱歌』の歌詞全文

| 作歌者：及川誠二（昭和5年集録）                                   |                                                     |
|----------------------------------------------------|-----------------------------------------------------|
| 1 ゆくてはいつこ寶積寺 希望を地史の上にして<br>春の一日ののどけさを 求めし今日のうれしさよ  | 2 窓にもたれて朝風を 愛づる折りしも一聲の<br>汽笛と共に吾が汽車は 烏山をばは出てにけり     |
| 3 愛宕の山の峯つゞき めぐると見れば虹塚の<br>傍もいつしかあらに見て 峠を走る心地よき     | 4 麦の緑のそが中に 黄金歌く花ありて<br>雪はつとかに春の香に 照はす陽の輝るなり         |
| 5 瀬音高く緑陰に 響くはこれぞ名にし負ふ<br>瀬の名所と相俟ちて 観音堂のあるところ       | 6 石のきざはし吾もして 慈覺大師開山の<br>堂宇をめぐる老杉は 雲を擁ふにさもにたり        |
| 7 汽笛一聲トンネルに 我等が汽車は入りけり<br>此處驛工の一とて 延長費に三町餘         | 8 森田にきこえし発着所 小唄をすきて荒川の<br>流れにわだす橋樑に かなれば音のかまびすし     |
| 9 かなたに見ゆる山脈の ふもとにひける一筆の<br>斜めに染めしうすすみ 高瀬の景の傳がたしや   | 10 いつしか大里あとにして 鎮守ふりむくひまもなく<br>大金驛につきにけり 驛夫のこゑもほがらかに |
| 11 化石に名ある小河原や 人に知られし十二ノ<br>大和久小倉ほど近く 汽車は驛をばいでにけり   | 12 田の倉校や安楽寺 窓下に青き荒川を<br>再び右にながめつゝ すぐれば変る峯の松         |
| 13 櫓にさながらの枝ぶりを 寫眞機に入るゝ者のあり<br>黒客何ぞ驚なからん 語人はすてじこしの峯 | 14 福岡すきて鴻の山 長者平は遠けれど<br>今猶残る馬屋窪 八幡太郎に知られけり          |
| 15 窓より近き法康寺 一向宗にぞしられぬ<br>裏新田の舊寺は 日蓮宗の古伽藍           | 16 太田神社を右に見て 左に仰ぐ重の宮<br>文枝校の庭先を すぐれば早やも熟田驛          |
| 17 汽車は煙を吐きてゝ 今ぞ熟田をいでゝ行く<br>高根穴まだ花園は 野州までふも高し       | 18 廣義幾里津渡の 水路端狭手に分れつゝ<br>さすかは廣き水田に 新すものはこゝかしこ       |
| 19 花岡校や地蔵寺を すぐて石末寶積寺<br>猪瀬送電の架空線 櫓橋ならべ一奇観          | 20 まもなく来る寶積寺 東北線と交りて<br>昇降客の多ければ プラットホームは纏る如し       |

等を詠い込み爆発的な人気を博し、昭和戦前期にかけて多くの鉄道唱歌が作られた。『烏寶線鉄道唱歌』もこのような背景の中で作られたものと思われる。なお、“烏寶線”とは 1923 (大正 12) 年に開業した現在の JR 烏山線であり、20 番までの歌詞とともに“昭和 5 年集録”と手書きで記された古びた便箋を市内の知人から預かったことが契機となった。この資料を基に、2014 年度は現地および文献調査をはじめ古老や市の文化財関係者へのヒアリング等を行い、概ねその全文を特定・解明することができた。表 1 に、特定した『烏寶線鉄道唱歌』を示す。

### (2) 『地域資源回遊マップ』の製作

2015 年度は、『烏寶線鉄道唱歌』の活用として、市民ワークショップ (以降、WS) を開催し歌詞に詠まれた地域資源を抽出するとともに、さらに現代の地域資源について抽出した。これらの抽出した地域資源を地図上にプロットし、参加者を募り烏山線各駅を起点にフットパス (以下、FP) を開催した。WS・FP とも各々 3 回開催し、WS には延べ 89 名、FP には 106 名の参加があった。FP では、参加者に対し①駅から地域資源までの時間・距離の計測、②訪ねた地域資源の感想・紹介文の作成、③イラストの作成を依頼し、これらの成果を盛込んだ『地域資源回遊マップ』を製作した。現在、①～③データを随時募集しており、その応募を踏まえ“参加者が情報発信する更新型情報マップ”として機能している。

## 3 JR 烏山線の現代版鉄道唱歌製作に向けた検討

### (1) 市民ワークショップの開催

2016 年度は『現代版烏山線鉄道唱歌』の製作を目途に、市民 WS を 4 回開催した。第 1 回 WS は、鉄道唱歌の持つ意味と当該地域の地域様相およびその変容について確認し地域特性の理解を深める中で、『現代版烏山線鉄道唱歌』に採り入れる“地域資源”を抽出した。抽出に際しては、鉄道唱歌が大衆に迎合された要素である“地理・歴史や伝説・名物”とともに、「地域資源活用促進法 (中小企業庁。平成 19.5.11 施行/平成 27.7.15 改正)」の考え方

キーワード：鉄道唱歌、地方都市、地域活性化、地域資源、取組み評価

連絡先：〒326-8558 栃木県足利市大前町 268-1 足利工業大学 福島二郎 tel.0284-22-5687 e-mail:fuku@ashitech.ac.jp

を加味した。その結果、『那珂川』（自然・自然的景観）、『烏山城』（歴史・歴史的景観）、『山あげ祭』（観光資源）、『境橋』（近代化遺産）など、91 件の地域資源が抽出された（表 2 参照）。第 2 回 WS では、抽出された地域資源が有する意味をさらに具体的に説明するための“説明文言・成句”を提示してもらった。これは現代版唱歌の歌詞を作成するにあたり、“伝えるべき内容”をより明確にするため実施したものである。その結果、48 の“説明文言・成句”が抽出された（表 3 参照）。なお、参加者は、第 1 回 30 名（市内 18 名・市外 12 名）、第 2 回 36 名（市内 21 名・市外 15 名）であった。

表 2 抽出された 91 件の地域資源の分類とその割合

|    | 区分             | 件数 | 割合(%) |
|----|----------------|----|-------|
| 1  | 自然・自然的景観       | 20 | 22.0  |
| 2  | 歴史・歴史的景観       | 25 | 27.4  |
| 3  | 建造物①(教育)       | 0  | 0.0   |
| 4  | 建造物②(産業)       | 0  | 0.0   |
| 5  | 建造物③(交通・通信・土木) | 7  | 7.7   |
| 6  | 建造物④(近代化遺産)    | 8  | 8.8   |
| 7  | 農林水産物          | 7  | 7.7   |
| 8  | 鉱工業品・生産技術      | 6  | 6.6   |
| 9  | 観光資源           | 12 | 13.2  |
| 10 | その他            | 6  | 6.6   |
|    | 合計             | 91 | 100.0 |

表 3 地域資源の説明文言・成句の整理

|    |                                 |
|----|---------------------------------|
| 1  | 母なる大河 恵み豊かな 那珂川の やなの風景 鮭の遡上     |
| 2  | 墨絵のような雲海に うっとり国見は みかんの名所        |
| 3  | 綺麗な水が 育んだ 洗練された うどんの形           |
| 4  | 歴史を語る山あげの 祭りに集う若者の おどりは那珂の 鮎に似て |
| 5  | 故郷駆けけるキハ40 時代は変わるアキムへと          |
| 6  | ...                             |
| 7  | ...                             |
| 47 | トンネル抜けて龍門の 竜神様の民話あり             |
| 48 | 化石で名を負う 十二口                     |

## （2）現代版鉄道唱歌の原案作りの基本姿勢

現代版鉄道唱歌の原案作りに際し、近代初期に作られた鉄道唱歌との比較から、今回製作する唱歌の意義・性格を次のとおりとした。①採り上げる地域資源は、爆発的人気を獲得した『鉄道唱歌第一集・東海道篇』に冠された“地理教育”という文言が示すように、“地名の多用による関連情報の採録”から、“地域固有の歴史・伝統・文化を重視し地域の魅力を掘下げる”ことを基本姿勢とした。さらに、これまでの鉄道唱歌に倣い、リズムカルな語感を有する七五調定型詩を踏襲し、適度な文語体の組込みにより程良い響きが記憶に残ることを意図した。

## 4 構成要素の分析と現代版鉄道唱歌の概成

このような経緯と意図を踏まえ、『現代版烏山線鉄道唱歌』の原案を作成した。第 3 回 WS では、原案を参加者に提示し、歌詞文言の表現とその構成について議論した。さらに、第 3 回 WS で指摘された事項への対応をまとめ、第 4 回 WS において最終案の提示と微調整を経て『現代版烏山線鉄道唱歌』が概成した（表 4 参照）。

『鉄道唱歌第一集・東海道篇』『烏寶線鉄道唱歌』に比

表 4 概成した『現代版烏山線鉄道唱歌』の歌詞全文

|    |                                                                              |
|----|------------------------------------------------------------------------------|
| 1  | 昇る朝日に煌めいて(きらめいて) 旅立ち嬉し(うれい) 烏山アキムが描く未来地図/踏み出す足も軽やかに                          |
| 2  | 光と戯る(たむさ) 那珂川の/ゆたかな流れ水清く 若貼る水飛沫(みずしぶき) 八瀬の裾野やの歌声(こえ)                         |
| 3  | 450(しひゃくごじゅう)の手(とき) 重ね/名にし負うかな山あげの 見得切る胸懷(みえきるけんらん) 舞い姿/常盤津の音(ときわつのね) も隠れやかに |
| 4  | 常春公が祀られし/寿龜山神社の鳥居より 七曲り(ななまがり) 終て城跡(しろあと) は/古(いにしえ)の栄え語り継ぐ                   |
| 5  | 那須家様の(なすけやかりの)天性寺/お寂しい小屋で知られたる 勃闊闊る(およくぐくまわる) 泉溪寺/銀杏(いちょう)の大樹殿(おごそか)に        |
| 6  | 水面彩る(みなもいろる) 橋と橋/姿かたちは違え(たがえ) とも 奥野 山あげ 烏山/夢懸け渡す虹のごと                         |
| 7  | 遺産となりし境橋/3連アーチも麗らか(うららか)に 緑潤る(みどりしだる) 落石の/紅葉(もみぢ)の頃はさらに映え                    |
| 8  | 南に臨む(のぞむ) 下境/千年の技(ちとせのわざ)を引き継ぎし 幸書 程村 和紙の里/寶子(たからこ)に 輝る夢模様                   |
| 9  | 峯の上なる国見には/たわなに弾ける(はじける) みかんあり 露地栽培の北限地/豊海の里と知られたり                            |
| 10 | 電車はほどなく海駅へ/轟音響く水煙(みずけむり) 大森小笠原門は/太平寺にもほど近し                                   |
| 11 | 神長(かなが)の小高い山裾に/木漏れ日ゆるる洞(ほら)ありて 戦車工場あとかたは/平和の響き語り継ぐ                           |
| 12 | 稲穂のうねり大波の/沃野の大地(よくのちのち) 進みゆく にわかに響(か)けりレシントンルは/レールも軌(き)い む倉敷配                |
| 13 | 小溝を過ぎて荒川の/流れに渡す鉄の橋 那須久隆(なすのみつたか) 築城と/伝えし城も傾げられる                              |
| 14 | 眺め涼しき荒川の/豊かな恵み物語る 大和久 小河原 十二口/住古の生活(おうちのから) 夢のまに                             |
| 15 | 大地の鼓動悠ろの/土地に刻みしジオパーク 太古のロマン物語る/クジラの化石見つけたり                                   |
| 16 | 田野倉の里安楽寺/名ある古刹(こさつ)と知られけり 山門 兼助 眺めつつ/やがて向かう(むかう)は鴻野山                         |
| 17 | 陽炎(かげろう) ゆれる草の群れ/八幡太郎義家の 蹟(いわれ) もゆかし官衙址(かんがあと) /長者ヶ平豊高し                      |

表 5 各唱歌の地域資源の構成比の比較

| 分類             | 鉄道唱歌第一集東海道篇 (1900年) |       | 烏寶線鉄道唱歌 (1930年) |       | 現代版烏山線鉄道唱歌 (2017年) |       |
|----------------|---------------------|-------|-----------------|-------|--------------------|-------|
|                | 件数                  | 割合(%) | 件数              | 割合(%) | 件数                 | 割合(%) |
| ①自然・自然的景観      | 47                  | 22.8  | 11              | 20.3  | 13                 | 20.6  |
| ②歴史・歴史的景観      | 61                  | 29.6  | 13              | 24.1  | 24                 | 38.1  |
| ③建造物(教育)       | 0                   | 0     | 3               | 5.5   | 0                  | 0     |
| ④建造物(産業)       | 0                   | 0     | 1               | 1.9   | 0                  | 0     |
| ⑤建造物(交通・通信・土木) | 19                  | 9.2   | 6               | 11.1  | 8                  | 12.7  |
| ⑥地名            | 69                  | 33.5  | 19              | 35.2  | 10                 | 15.9  |
| ⑦名物・名産・土産・伝統など | 10                  | 4.9   | 1               | 1.9   | 8                  | 12.7  |
| 合計             | 206                 | 100   | 54              | 100   | 63                 | 100   |

べ、『現代版烏山線鉄道唱歌』の“歴史・歴史的景観”の比率が高いことがわかる。表 5 に、『鉄道唱歌第一集・東海道篇』『烏寶線鉄道唱歌』および『現代版烏山線鉄道唱歌』の地域資源構成比の比較を示す。

## 5 まとめ

本研究は『烏寶線鉄道唱歌』の入手を端緒に、JR 烏山線沿線の地域活性化に向けた検討を行ってきた。これまでの成果は、『烏寶線鉄道唱歌』の歌詞全文の復元、JR 烏山線を活用して地域内を巡る“更新型の地域資源回遊マップ”の完成とその定着である。さらに、これらの過程において市民との協働形態が構築されてきたことであり、それは 2016 年度に取組んだ『現代版烏山線鉄道唱歌』の概成に結びついた。この現代版鉄道唱歌製作の取組みは、①市民にとって地域の誇り・魅力の再確認・再認識になるとともに、次代を担う児童達への地域理解の気付きを与える活動の契機になるものと考えている。また、②訪問者には、甘美な文語定型詩に触れながら“気軽に地域文化案内の入門書”として機能するものと考えている。今後は、成果の精査を行うとともにその効果の検証が必要となる。

\*本研究は、栃木県立烏山高等学校との共同研究として、また『那須烏山市まちづくり研究会』活動の一環として実施した。